



九谷磁器窯跡出土色絵陶磁片 加賀市蔵 一色絵の系譜より



「レースグラス蓋付大杯」ヴェネツィア 一ガラスのきらめきより

■ [特別陳列] 色絵の系譜 古九谷・再興九谷を中心に 第2展示室

■ [特集] 百万石大名の装い 一甲冑・陣羽織一 前田育徳会尊經閣文庫分館

■ [特集] ガラスのきらめき 第5展示室

- 7月の企画展示室
- コレクション展示室 主な作品
- 情報・図書コーナー・映像ギャラリー
- ミュージアムショップ通信
- ミュージアムレポート
- 行事予定
- 所蔵品紹介

特別陳列

色絵の系譜

古九谷・再興九谷を中心に

6月5日(金)～7月20日(月・祝)会期中無休

2F
第2展示室

学芸員の眼

百花手の名品を並べて展示 古九谷には「百花手」と呼ばれる一連の作品があります。文字通り表面の口縁部から見込みにいたる広い範囲に、百花繚乱という感じで花や瓢箪、瑞鳥が描きこまれています。こうした意匠は、古九谷に先立つ桃山時代の「南蛮漆芸」に見ることができま。蒔絵や螺鈿で聖龕(せいがん)や聖餅(せいへい)箱にあしらわれたものと同じような意匠が、なぜ色絵磁器の古九谷に登場するのか興味深いものがありますが、今回は名品として名高い当館所蔵の県文「色絵百花散双鳥図平鉢」と、石川県九谷焼美術館所蔵の加賀市文「色絵百花手唐人物図大平鉢」が並べて展示されています。描写、表現の共通点の発見など、実物をとおして是非体験してみてください。

今回の特別陳列は、開始直後から全国の古九谷

愛好者の方々が来館されるなど、大きな反響をい

ただいています。今回の展示では、やはり色絵陶

磁片が大きな話題となっています。古九谷の産地

について様々な議論がある中で、九谷地区の磁器

窯跡から古九谷を連想させる色絵陶磁片が発見さ

れたことは誠に意義深いといえます。今回は昨年

新たに発見されたもの(加賀市所蔵)と、石川県

埋蔵文化財センターが所蔵する九谷1号窯斜面下

出土の青手磁器片(年代未詳)や、同じく九谷A

遺跡出土の色絵陶磁片と色見陶磁片(十七世紀)

が並べて展示されています。加賀市所蔵のもの

と、九谷A遺跡出土のものは石川県立美術館で初

めて展示されるものですし、九谷1号窯斜面下出

土の青手磁器片も二十二年ぶりの展示となります

す。そして、これらの陶磁片と古九谷・再興九谷

のまとまった優品が同時に展示されるのは、今回

が初めてです。

「色絵の系譜」とのタイトルのとおり、今回の

展示はこれらの陶磁片と交趾や中国の景德鎮窯の

五彩、さらには織部や京焼を芸術的に洗練させた

野々村仁清、尾形乾山の優品群をつなぐものが古

九谷・再興九谷を生んだ土壌だったことを系統立

てて紹介することを主眼としています。古九谷が

突如登場したのではなく、単に色絵磁器のみなら

ず先行する様々な陶磁器の造形感覚を吸収し、さ

らに大胆に翻案していった軌跡を理解というより

は、まず体感していただければ幸いです。

■料金

個人	一般	大学生	高校生以下
二八〇円	三五〇円	二八〇円	無料
団体	無料	一二〇円	無料



重文 色絵梅花図平水指 野々村仁清

ガラスのきらめき

6月5日(金)～7月20日(月・祝)
会期中無休

ガラス工芸の中心的な役割を果たす地域は、時代と共に推移してきましたが、途切れなくガラス工芸の伝統を育んできたのはヨーロッパです。中世以来ガラス工芸の最高峰として君臨してきたのはヴェネチア。ムラノ島で、美しく絵付けを施された「エナメル彩ガラス」やヴェネチアの秘法と言われた「レース・ガラス」など高度な技術の作品が作られました。しかし、ガラス工人の島外逃亡などから、ヴェネチアの秘法もやがて各地に伝わり、ヨーロッパ市場の中心はボヘミアへと移っていきました。

ピザンチンとヴェネチアよりガラス技術を導入してきたボヘミア。十六世紀末に、「ボヘミアン・クリスタル」という無色透明なガラスを作り出すことに成功します。透きとおったガラスに、カットやグラヴィールを施したものや、「ゴールドサンドイッチガラス」、「シユバルツロット」など、華麗な装飾効果を持つボヘミアン・ガラスは、ヨーロッパの宮廷社会に受け入れられ、ヨーロッパガラス界の頂点を極めました。

本展では、十六世紀から二十世紀にかけてのヨーロッパを中心とした九カ国の作品から、幾世紀にもわたって発展してきた加工技術の一端に触れていたただく機会となる事でしょう。そして、ガラスという一つの素材が、職人の精鋭の技術や美への探求心に、常に新たな刺激を与え、かつそれを魅了し続けてきた様子もあわせてご覧下さい。



「白被カットエナメル金彩銀脚貝形器」ボヘミア

百万石大名の装い

—甲冑・陣羽織—

6月5日(金)～7月20日(月・祝)
会期中無休

前田家に伝わる甲冑と陣羽織を展示しています。今号では陣羽織について紹介しましょう。陣羽織は鎧の上から身に着けた羽織のことで、戦国時代から江戸時代にかけて用いられました。古くは袖のついたものが通例でしたが、戦の際に不自由であったことから、袖を除いたものが一般化していきました。当初は普通の羽織を着用していたようですが、次第に威厳を示すため人目を引く羽織が作られるようになりました。戦場において寒さや雨露から身を守るため、そして動きやすさを求めて、また、存在誇示や応接の際に威厳を示すために、当時日本に舶載されたラシャやビロードなどの新しい素材を使用して、自由な意匠による陣

羽織が作られました。江戸時代に入ると、陣羽織も実用的なものから儀礼的な服装に変化し、装飾的要素が強くなり、前田家歴代藩主の陣羽織も、華やかな色彩、大胆で奇抜な意匠のものが多くなりました。十四代藩主慶寧が着用した紅羅紗白梅紋下唐更紗陣羽織は、肩から胴にかけて紅羅紗地に家紋の梅を白で、腰から裾にかけて、ては時代唐更紗、襟は花色地金入、波の丸に飛竜菊の意匠で、材質・意匠・色彩とも斬新で異国趣味にあふれています。

百万石大名の装いをご堪能下さい。

白梅紋下唐更紗陣羽織 十四代前田慶寧所用

第39回日彫北陸展

第7～9展示室（午後5時閉室）
平成21年7月15日(水)～7月19日(日)

日本彫刻会は、彫刻の美しさ、豊かな生命観、存在感、そして空間との対話を求めて日彫展を開催し、具象彫刻を中心に彫刻の本質をつかむべく、会員相互の研鑽を推し進め、造形芸術の向上に努めている国内では最大規模の彫刻公募団体です。

本展は六月に六本木 国立新美術館で開催した第三十九回日彫展より芸術院会員をはじめ各受賞作品、会員の選抜された優秀作を基本作品とし、石川、富山の地元出品作、合計約九十点を展示します。

是非ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

なお、障害者のかた及び、付き添い者一名入場無料とし、ふれてみられる作品も展示してあります。(手形マーク添付)

◇入場料／一般…五〇〇円 高大生…三〇〇円 小中生無料

◇連絡先／金沢市鈴見台三一一一 石田康夫
電話 〇七六一二二一一四五三一

第20回石川県水墨画協会公募展

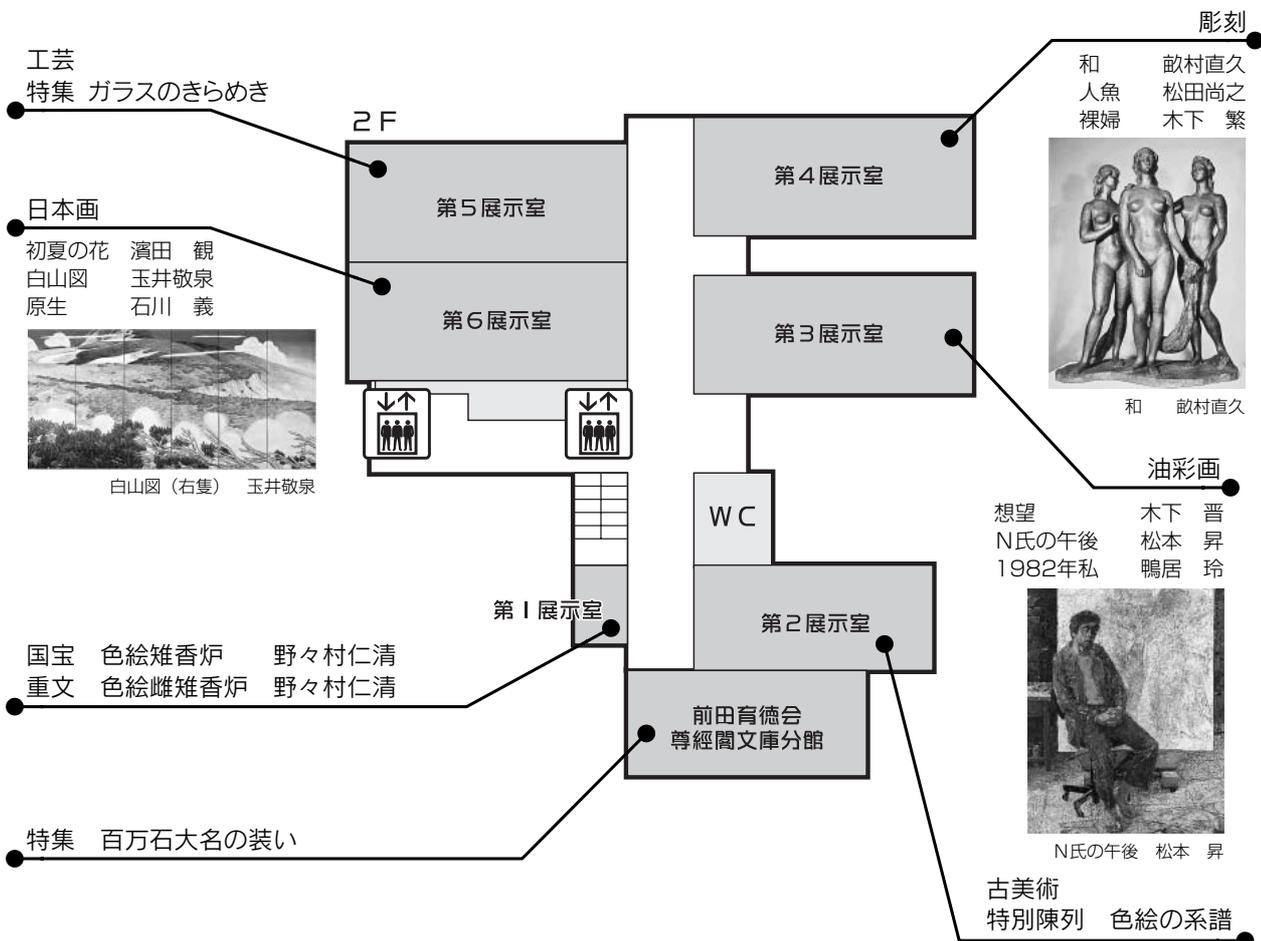
第7～9展示室（午後5時閉室）
平成21年7月3日(金)～7月7日(火)

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作品を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主催の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的個性的な表現による、協会展ならではの作品をご覧いただけたらと思います。

多くの方がたのご来場をお待ちしております。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市富樫二一三二一
事務局長 森川節夫
電話 〇七六一二四三一一二二五



情報・図書コーナー

昨年のリニューアルオープン時より、一階の吹き抜けロビーのフリースペースの一角に、情報・図書コーナーを設け、ご来館の皆様にご利用いただいていることにはすでにご存じかと思われます。

ここではあらためて、このコーナーについてご紹介したいと思います。

現在このコーナーには、美術に関連した左記の図書資料等を開架しています。

- 全集・シリーズ……………約六五〇冊
- 単行図書……………約一二〇冊
- 子ども向け美術書……………約二五〇冊
- 美術雑誌……………十二種
- 美術新聞……………三種

その他、他館の日より・ニュースや、現在開催中の各地の展覧会チラシ等をファイルした全国展覧会情報を置き、最新の展覧会情報の提供を行っています。また、コーナーの一角には、書庫に収まっている美術館の蔵書約三万冊を検索できる端末を設置し、要望があれば閲覧できるようにもなっています。スペースの問題、資料収集の予算の問題で、十分な質と量の図書コーナーとはまだまだいきませんが、少しでも展覧会鑑賞の参考にしたり、美術に関する知識を深めたり、美術に親しむきっかけにしたりしていただけるように努めています。

また、コーナーを出たところに三台の端末が設置され、美術に関するゲームを楽しむことができますので、合わせてご利用下さい。

※利用時間は、開館日の午前九時三〇分〜午後四時三〇分

※図書の貸出・コピーサービスは行っておりませんので、ご了承下さい。



映像ギャラリー

「悠久の中国 やきものの紀行 青磁のふるさと 龍泉窯」(31分)

日時／七月五日(日) 午後一時三〇分

会場／美術館ホール

「入場無料」

今回の映像ギャラリーでは、中国のやきものの産地・龍泉窯を取り上げたビデオを上映いたします。

揚子江の下流・浙江省に、青磁のふるさととされる龍泉市があります。龍泉窯は、十二世紀南宋から元の時代に最盛期を迎え、多くの青磁がアジア全域に広まりました。特に日本では、茶人に愛され各地に優品が伝世しています。この青磁も十七世紀清の始めに終焉を迎え、その伝統は長らく途絶えていましたが、数百年の時を隔てた現代、その復興に取り組む人も現れ、深みを帯びた美しい青磁がつくられています。この番組では、いにしえの名品と現代の名作を通して、その美しさに迫ります。

ミュージアムショップ通信

久しぶりのショップ通信ですが、ショップの商品も新しいものが増えてきました。特に作家もののコーナーが充実してきて、皆さんにも喜んでいただいています。やはり作家のセンスと修練が作り出す一点ものに魅力を感じる方が多いのでは。身のまわりにお気に入りものを増やしませんか。

- ◆湯呑み 二、〇〇〇円
- ◆カップソーサー 六、三〇〇円
- ◆桜長角皿 三、七〇〇円
- ◆カードホルダー 六〇〇円



第七回バスツアー報告

「飛騨の匠に出会う旅」

平成21年6月6日(土)

六月六日(土) 高山市、飛騨市に第七回バスツアーにいつてきました。心配された天候も高山市内に着いた頃にはカラリと日が差し、夏日を思わせる一日となりました。今回のテーマは「飛騨の匠に出会う旅」。

飛騨国分寺

住職より寺の縁起、概略について解説を聞きました。重要文化財の本堂や天然記念物に指定されている大銀杏の木に悠久の時の流れを感じるひとときでした。

重要文化財 吉島家住宅

当主の吉島九兵衛忠雄氏より住宅の概略、建築的な魅力について語って貰いました。氏は建築家ということもあり、専門的な内容に及ぶ話もわかりやすくして下さいました。その後自由見学とし、午前中はそれぞれ飛騨の小京都の風情を味わって貰いました。

飛騨高山美術館

十九世紀のオールヌーヴォー様式のガラス作品をコレクションする美術館。コレクションの内容は豊富で見応えがあり、丁寧な学芸員の方の解説も併せて、参加者の皆さんも満足している様子でした。

ゆっくりする間もなくこの後は一路飛騨市は古川へ向かいます。

円光寺

古川の町並みにしっとりときけ込む円光寺の境内。前住職より寺の縁起、古川の町、三寺参りについてユーモアを交え解説を受けました。山門や寺の水呼びの亀についてもとゆっくりと見る時間がとりたいところでした。

飛騨の匠文化館

釘を一本も使わずに組子だけで仕上げたという当館は地元の大工さんが建てたもの。建物の造作を通して飛騨の木匠たちの技を解説して貰いました。解説を受けた後は組子のパズルに汗を流す一コマも見られました。

あわただしい今回の旅もいよいよ最終目的地安国寺へ向かいます。

国宝 安国寺経蔵

こちらの安国寺は当初スケジュールに入っていなかったもの。しかし、ここは少々時間をつめてでも見ていただきたいところでもありました。寺の縁起を聞いたあと、見学者が来ても普段は開けない開山堂も特別に開けていただきました。その後、国宝の経蔵を開扉していただき、中へ。

波形連字の欄間が文化財の保護に一役買っている話に一同納得。また、普段は見ることのできない輪蔵に参加者の皆さんは感嘆しきりのご様子でした。多くの方々が感動し、見学箇所を無理に追加しても価値の認められる文化財であったと思います。

見学箇所を増やしたため、全体的に足早でゆっくりできない印象が残る見学となりました。それでも最後まで無事故のツアーを終了することができたのは参加者の皆様のご協力があればこそと感謝いたしております。次は秋の一泊バスツアーです。皆様に喜んでいただける企画を考えて参ります。



飛騨国分寺にて

ミュージアムレポート キッズ☆プログラム

近代日本美術の精華鑑賞会

明治時代をのぞいてみれば



に「作品探し」でウォーミングアップから始めてもらいました。「れんげに すわたた ホトケが三人」「つきよに さかなを まつ人 ひとり」「あかいチョッキの おさるも いるよ」など十一題の問題に挑戦。親子で企画展示室を行ったり来たりしながら作品を探し出してくれました。

その後はワークシートをもとに、探した作品でギャラリートーク。「こんなところに魚をとっている人がいる」「ほんとに風が吹いているみたい」などそれぞれが近代日本美術を味わってくれていたようです。参加者の年齢が小学校一年生から六年生と幅広く、トークや解説の視点を絞るのが難しい行事でしたが、それぞれが心につと土産になる作品を持って帰ってきていればと思います。

この後も夏休み体験講座を始め、キッズプログラムは楽しい催しが目白押しです。奮ってご参加ください。

問い合わせは普及課まで。電話〇七六一三二一七五八〇。

五月十七日(日)にキッズ

プログラム「明治時代をのぞいてみれば」を開催しました。当館企画展「近代日本美術の精華」の鑑賞会で、たまたま同時間に居合わせた親子にも参加してもらい、小学校一年生から五年生までの十五名の親子でスタート。「ミッケ」(謎解き絵本/小学館)をもじった展覧会バージョンの謎解きを作り、参加者の皆さん

7月の行事予定

土曜講座	午後一時三〇分	会場/本館講義室	聴講無料
4日(土)	日本美術史8 彫刻 「近世中世の彫刻」	北澤	寛 学芸専門員
11日(土)	日本美術史9 彫刻 「日本の彫刻 近代から現代の流れ」	宮	衛 学芸第二課長
18日(土)	日本美術史10 「古代の工芸」	西田	孝司 学芸専門員
講演会	午後一時三〇分	会場/本館ホール	聴講無料
19日(日)	「加賀藩前田家を語るー幕末の藩主を中心にー」	前田利祐氏(前田家十八代当主)	
26日(日)	「有職故実と日本文化」	長谷川孝徳氏(北陸大学教授)	
ビデオ上映会	午後一時三〇分	会場/本館ホール	入場無料
5日(日)	「悠久の中国 やきもの紀行1 青磁のふるさと 龍泉窯(31分)」		

キッズ☆プログラム

会場/広坂別館

27日(月)	小学五・六年生対象「油絵に挑戦!」
29日(水)	小学一・二年生対象「つみきでひかりのアート」
31日(金)	小学三・四年生対象「小さなおりものづくり」

参加費/実費として一、〇〇〇円程度。

応募締切り/すべて七月十日(金) 必着。

申込み/往復はがき(応募者多数の場合抽選)

詳細は前号掲載。問い合わせは普及課まで

キッズプログラムのお知らせ

参加者募集

バックヤードツアー「うらがわ美術館」

八月八日(土) 午後一時三〇分

応募締切り/七月二十一日(火)

申し込み/往復はがき(応募者多数の場合抽選) 定員十組の親子

口径43.1cm 底径18.4cm 高10.2cm 江戸時代17世紀



牡丹は百花の王、富貴の象徴として中国や日本の絵画に数多く描かれてきました。本作は菊花を連想させる花小紋地に、大胆なクローズアップによって牡丹が紫の花と緑の葉のコントラストも鮮やかに描かれています。完全な磁器ではない、土味を感じさせる器体は素朴な力強さを醸しだし、それが意匠の筆法とよく調和しています。古九谷の色絵は、交趾の流れをくむ京焼の影響を受けたと考えられますが、本作はそうした影響関係を再認識する好例と言えます。そのうえ九谷の地とてかく色絵磁器を生産しようとした作家集団の並々ならぬ熱意も伝わってきます。古九谷初期に制作されたと考えたい作品です。

当館第二展示室で開催中の特別陳列「色絵の系譜」(七月二十日まで)では、本作そして同じ作行の《青手老松図平鉢》や交趾の香合、さらに野々村仁清の重文《色絵梅花図平水指》が同時に展示されています。また今回は古九谷の豪放な造形感覚の源泉の一つという位置付けで織部も加えてみました。桃山時代から江戸時代初期は、日本のやきものが著しく発展した時代でした。当時生産され、あるいは好まれた作品群とともに鑑賞しますと、古九谷の独創性の由来がよくわかる感じがします。

次回の展覧会

前田育徳会尊経閣文庫分館	第2展示室 (古美術)	第5展示室 (近現代工芸)	企画展示室
<p>国宝「北山抄」 —平成時代の儀式書— 7月24日(金)～8月23日(日)</p>	<p>「浮世絵」 —夏祭りに夕涼み— 7月24日(金)～8月23日(日)</p>	<p>「染の変遷」 7月24日(金)～8月23日(日)</p>	<p>「アンリ・リヴィエール展」 7月24日(金)～8月23日(日)</p>
		第6展示室	ご利用案内
		<p>「夏休み親子で楽しむ美術館」 —親子でつむぐ22の物語— 7月24日(金)～8月23日(日)</p>	<p>コレクション展観覧料 — 一般 350円(280円) 大学生 280円(220円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00</p>
<p>— 7月の休館日は21日(火)～23日(木)です —</p>			
<p>石川県立美術館だより 第309号 2009年7月1日発行(毎月発行)</p>		<p>〒920-0963 金沢市出羽町2番1号 Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550 URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/</p>	